

様 式

パブリック・コメント募集結果

「白井市第6次総合計画基本構想（素案）」について、皆様からご意見を募集したところ、下記のとおり、御意見をいただきました。

いただいた御意見とこれに対する本市の考えにつきまして、次のとおり取りまとめましたので、公表いたします。

案 件	白井市第6次総合計画基本構想（素案）		
募集期間	令和6年12月26日（木）～ 令和7年1月22日（水）28日間		
意見の件数 （意見提出者数）	35 件 （12 人）		
意見の取扱い	修 正	素案を修正するもの	12 件
	既記載	既に素案に盛り込んでいるもの	0 件
	参 考	素案には反映できないが今後の参考とするもの	2 件
	その他	素案には反映できないが意見として伺ったもの	21 件

箇所	意見の概要	通番 (氏名)	意見に対する市の考え方
Ⅱ-1	下から2行目の「誰もが日常生活に支障がない、環境が整った」 →「全ての人の日常生活の環境が整った」としては、いかがでしょうか。 「支障がない」ですとマイナスのイメージですので、「支障がない」という文言は、避けた方が良くと思います。	No. 1 A 氏	いただいた御意見踏まえて、『便利なまちで快適なくらし』の説明を以下のとおり修正します。 →生活に必要な商業施設の充実や、移動手段の確保などによって、“あらゆる人の日常生活の環境が整った” 便利なまちを構築することで、子どもから高齢者まで誰もが快適にくらせることです。【修 正】
Ⅱ-2	子育て世代への支援について、多子世帯の上の子が小学生になったら下の子の保育料援助が無くなると年の差兄弟が不利になり少子化にも繋がると考えます。	No. 2 B 氏	各種アンケート調査の結果において、若い世代や子育て世代は経済的な不安を抱えている傾向にあることが把握できました。 限りある資源の中で、如何に効果的な経済的支援を行うかが問われるところであり、今後、取組や事業を考える上での参考とさせていただきます。【その他】
Ⅱ-2 ～ Ⅱ-4	食、遊び、名産品、全てがひとつにまとまった道の駅のような名所が出来たら良いなと思います。	No. 3 B 氏	「食、遊び、名産品、全てがひとつにまとまった道の駅のような名所」ができた場合、Ⅱ-2「2. 今後10年間の重要なテーマ」のうちⅡ-3「(4) 産業の振興」や「(6) 居場所・交流の場の創出」などのいくつかのテーマに寄与することが想定されます。 今後、「2. 今後10年間の重要なテーマ」等に基づき取組や事業を策定していきますが、その際の参考とさせていただきます。【その他】
Ⅱ-9	「補完性原理」に触れている箇所では、以下のポイントが追加・反映できると、説明としてはさらに良くなると思われます。 ・人口減少・少子高齢社会が本格化する中、行政資源（税金）には限りが出てくることから、税金は真に必要なところに投下していくことが求められていく。 ・そのためには、様々なまちづくり資源を引き出し、育み、活かしていくことが求められ、市民・民間・地域でできないことを行政が補完していくという考え方が必要とされる。 ・自助・共助・公助のあり方は、市民・行政・民間が対話を重ねながら捉え直していくことが問われる。	No. 4 C 氏	いただいた御意見を踏まえて、伝えたいことをより具体的にするため、Ⅱ-9「(3) 多様な主体との＜連携・協働＞」について以下のとおり修正します。 →人口減少・少子高齢社会が本格化する中、人材や財源などの行政資源には限りがあることから、より効果的・効率的に行政資源を使用していくことが求められていきます。 そのためには、様々なまちづくり資源を引き出し、育み、活かしていくことが求められ、市民・民間・地域などでできないことを行政が補完していく「補完性の原理※」という考え方が重要です。 まちづくりの主役は市民です。まちづくりにおける課題は、より身近なところで解決されることが望まれます。 行政の役割としては、市民や地域の取組を補完するとともに、多様な主体が対話を重ねながら自助・共助・公助のあり方を考え、自らの活動や支え合いを促進するような環境整備が求められます。 そのため白井市は、多様な主体が連携・協働できる仕組みづくりを充実させていきます。【修 正】

Ⅱ-3	10 のテーマは、全体として重要な課題を網羅していると思いますが、その中で、「(6) 居場所・交流の場の創出」というテーマが、今一つどういうことをイメージしているのか分かりかねます。ほかの 9 テーマと同様の重みづけになるテーマだとするとその重要性が感じられる内容を示していただいた方がよいと思います。	No. 5 D 氏	Ⅱ-3「(6) 居場所・交流の場の創出」につきましては様々な事象が多様化する一方、人間関係の希薄化という社会問題が背景にあります。 このテーマの重要性を補足するため、下 2 行を以下のとおり修正します。 →白井市においても、市民のライフスタイルの変化や多様化によって、働き方や暮らし方などに変化が起き、それに伴い人間関係やコミュニティのあり方が変化し、それぞれが安心できる居場所が求められるようになっていきます。 また、近年、外国籍の人や障がいのある人など、住民が多様化する中で、共生社会の実現のためにも、互いを知る機会を増やし、相互理解を図ることができる交流の場の創出も求められています。 居場所や交流の場の創出を基盤とした、多様な市民が地域社会に参画する仕組みづくりが重要です。【修 正】
Ⅱ-6	将来像実現に向けた 6 つの目指すまちについてのコメントです。「②誰もが交流し支え合えるまち」についてですが、多様な主体が連携してまちづくりを行うことにはとても賛成です。ここでも居場所・交流の場という言葉が出ていますが、もう一步踏み込んで、行政、地場の産業（農業、工業、IT など）、市民、学校、福祉施設などが協働でいきいきとしたまちを創り上げるということとその実現のための仕組みづくりを述べられないでしょうか。	No. 6 D 氏	Ⅱ-6「②誰もが交流し支え合えるまち」につきましては、Ⅱ-7「5. まちづくりの推進の考え方」に基づいて推進していくため、「行政、地場の産業（農業、工業、IT など）、市民、学校、福祉施設など」多様な主体が連携・協働できる仕組みづくりを充実し、まちづくりを進めていきます。 「②誰もが交流し支え合えるまち」の説明からその意味が伝わるようにするため、②誰もが交流し支え合えるまち」の 3～5 行目を以下のとおり修正します。 →そのために、それぞれが連携し新たな居場所や交流の場の創出を進めるとともに、多くの人々がまちづくりへ参画できる仕組みづくりを推進します。【修 正】
Ⅱ-6	③自ら学び育ちチャレンジできるまちについてですが、この項目が前述の 10 の重要テーマの中の「人生 100 年時代の福祉」に対応する項目だと思います。ここに記されている内容は結構ですが、それとともに弱者への温かさがある福祉をめざすことも加えてはいかがでしょうか？	No. 7 D 氏	Ⅱ-3「(2) 人生 100 年時代に向けた福祉の充実」のうち、健康の維持や生涯学習につきましては、「③自ら学び育ちチャレンジできるまち」が該当しますが、福祉は支え合うことが重要と考えており、「②誰もが交流し支え合えるまち」に基づいて支援が必要な方への温かさがある福祉を目指していきます。【その他】

Ⅱ-7	5. まちづくり推進の考え方に記されています持続可能な行財政運営をどうやっていくかというテーマが重要だと思います。歳入を維持、増加することが不可欠で、人口が減少するなかで個人からの税収は期待できず、そのためには、産業の誘致が不可欠だと思います。どういう産業を狙うのか方向性を示すことが必要ではないでしょうか。強固な地盤を活かしたデータセンター、梨と IT 企業連携したスマート農業など芽が出始めているように思います。焦点を示すことが大事だと思います。	No. 8 D 氏	産業の誘致につきまして、具体的にどのような産業を誘致するかにつきましては、「白井市企業誘致基本方針」により定めております。 本基本構想においては、その大枠として方向性を示すこととし、Ⅱ-3「(5) 企業の誘致・雇用の創出」に記載しているところです。 持続可能な行財政運営につきまして、歳出については、「No. 4」のとおり、Ⅱ-9「(3) 多様な主体との＜連携・協働＞」により言及するように修正します。 歳入の考えに等につきましては、いただいた御意見を踏まえて、Ⅱ-3「(5) 企業の誘致・雇用の創出」の 5 行目以降を下記のとおり修正します。 →また、人口減少や高齢化によって、今後厳しい財政状況が見込まれる中で持続可能な行財政運営を実現するためには、新たな税収や財源の確保が求められます。 白井市では、下総台地というしっかりとした地盤をもち、付近に活断層が見受けられないなど、地震に強いことや安定した電力供給などを強みとして、データセンターなどの企業誘致が進んでいます。白井市が持続的に発展していくためにも、引き続き地域との調和を図りながら、市の強みを活かした企業誘致を進めることが重要です。【修正】
Ⅱ-13	将来都市構造についてですが、鉄道沿いのまちづくりと幹線道路沿いのまちづくりがありますが、後者については、464 を利用した成田空港へのアクセスの良さ、国道 16 号、圏央道へのアクセスなど、産業誘致の側面を打ち出した内容にはできないのでしょうか。	No. 9 D 氏	いただいた御意見を踏まえて、Ⅱ-13「7.2 将来都市構造」の下 3 行を下記のとおり修正します。 →また、「広域幹線軸」や「地域軸」では、利便性を活かして沿道などに産業を誘致し、「中心都市拠点」や「生活拠点」と市内の各地域、そして市外を各軸によって結ぶことで、にぎわいの創出や利便性の向上を図ります。 【修正】

Ⅱ-7	行政サービスをどうしていくのかという視点も加えるべきではないでしょうか。現在の市役所のサービスは、私自身退職後様々なサービスを受ける機会がありましたが、市の職員の方々は皆さんとても親切で行き届いていると実感しました。一方で、人手不足や、高齢化に合わせたサービスの充実などの課題にも対処が必要になります。そのためには、デジタル技術を活用し、IT化、効率化を進めることが不可欠です。最近は従来より低コストで実現できる技術基盤がそろっています。 デジタル化で生じた余力を、ITに弱い高齢者向けのサービスや福祉行政に振り向けていくことが大きな方向ではないでしょうか。	No. 10 D氏	デジタル技術による効率化は重要と考えておりますが、デジタル技術の活用について触れていなかったのが『5. まちづくりの推進の考え方』のうち『(1) 課題や資源の＜共有＞』の4行目以下を、下記のとおり修正します。 →一方、近年関心の高まりを見せている脱炭素社会の実現や人手不足への対応、先進技術の導入、デジタル技術の活用など、社会課題やその課題に対する取組はより多様化・高度化が進んでいます。 白井市においても社会課題に対してDXの推進などにより効率化を図り、課題解決に向けて推進していきますが、限りある「資源（空間・人材・情報など）」の中で将来像を実現していくためには、白井市に関わる様々な主体の間で課題や資源を共有し、新たな価値を創出するとともに、地域課題を解決することも求められます。 そのため白井市は、課題や資源を共有するため、地方創生SDGs官民連携プラットフォーム※などの既存のプラットフォームの活用や新たなプラットフォーム（仕組み）をつくることにより取り組んでいきます。【修正】
他	第5次総合計画の実施状況を鑑み、“魅力あるしろいの創造”の目標達成には至っていないテーマもあり、継続実行されたいところであります。	No. 11 E氏	本基本構想につきましては、第5次総合計画の内容も踏まえて、今後10年間の市の方向性を示したものとなります。 そのため、前回の計画に引き続き目標達成に向けて取り組む事業もあると考えられますが、前回踏襲に留まらず、現況等を踏まえて、取組や事業を考えていきます。【その他】
Ⅱ-3	(6)居場所・交流の場の創出について市の人口は既に減少、高齢化して来ており、そもそも人が集う交流の場が欠けて来ております。この“賑わいの創出”が必要であり、失われつつある‘まち’の基盤を確保、整備出来るかに掛かってきております。	No. 12 E氏	『(6)居場所・交流の場の創出』することは「賑わいの創出」にも寄与することであり、いただいた御意見のとおりと認識しております。【その他】
他	現在、学校区を単位とする「まちづくり協議会」が発足していますが、市域全域でのネットワークが構築され、連携が図られるまでには至っておりません。行政と市民の役割分担を行い、連携を進めていくことが必要です。	No. 13 E氏	「小学校区単位のまちづくり協議会」は前回計画から発足していますが、役割分担等や連携については課題がまだあるところです。 「No. 4」においても修正したとおり、「対話を重ねながら自助・共助・公助のあり方を考え」、多様な主体が連携・協働できる仕組みづくりを充実させていく必要があると認識しております。【その他】

他	日常生活を営む上での便利さが減少しており、当計画の中で、人と人との繋がりが向上するような施策の実現に努めて頂きたい。	No. 14 E 氏	本基本構想（素案）のⅡ-1「1. まちづくりの基本理念」において基盤となるまちとくらしとして「快適なまちで便利なくらし」を掲げております。 この基盤となるまちとくらしはⅡ-2「2. 今後 10 年間の重要なテーマ」等を推進するうえで大前提となるものです。 「人と人との繋がりが向上するような施策」はⅡ-7「5. まちづくりの推進の考え方」と合致するところですが、「1. まちづくりの基本理念」に反しないよう努めることが重要と認識しております。【その他】
Ⅱ-3	(4)産業の振興、(5)企業の誘致・雇用の創出について 前回の計画でも農業の担い手の減少に対する対策を述べていますが、具体的な結果は見えてきておりません。梨農家も減少の一步進むかと思われます。具体的な取り組みを期待致します。	No. 15 E 氏	「農業の担い手の減少」については、前回計画においても、この課題に対する取組を実施しているところですが、課題の解決については難しい状況が続いております。 依然としてこの課題に対して取り組んでいく必要があると認識しているところですが、本基本構想の方向性としてⅡ-7「5・まちづくりの推進の考え方」の＜共有＞＜分野横断＞＜連携・協働＞にあるように、行政に留まらず、例えば担い手の減少を企業が持っている技術と連携したスマート農業の推進など、様々なありかたを模索していきます。 【その他】
他	市の取り組みの中で白井工業団地の活性化について、成田空港の拡張開港を視野に様々な施策を構築しているかと思いますが、この”産業の創出”の一環で工業団地へのアクセス道路の整備を実施しております。この第5次計画内では完了が困難のようであり、またこの基本構想（素案）で、「7.2 将来都市構造」を再掲していますが、西白井駅より南方向に延びる計画道路（16号線を横断）は依然”絵”（紙面）の中であり、この道路沿線をあらたな産業創出の拠点と計画しているのであれば、早期の決定、推進が必要と思われます。市の具体的な取り組みを基本・実施計画に示して頂ければと考えます。ひいては市内各地との結節により拠点間を結び、人と人との交流を促進、”にぎわいの創出”に寄与するものと思います。 尚、工業団地の活性化の中で整備要望されている、”道路・上水道・雨水排水”の整備を中長期的に検討するのも必要であり、次の産業誘致・振興に役立つものと考えられるのではないのでしょうか。	No. 16 E 氏	成田空港の拡張開港もしくは北千葉道路の整備を念頭においた、産業の誘致は重要と考え、Ⅱ-13「7.2 将来都市構造」を「No.9」のとおり修正します。 「計画道路」や「構想道路」においても、道路の利便性の向上だけにとどまらず、その後の産業の発展も念頭に置いて、事業の推進を検討していきます。 また、工業団地の活性化の中で整備要望されている、”道路・上水道・雨水排水”の整備につきましても、白井市都市マスタープランにおいて方向性が示されているため、中長期的視野の基、推進していきます。【修正】

Ⅱ-4	(9)災害への対策について、今般、「白井市総合防災訓練」が計画されていますが、市民の方々の地震等災害への備えが十分確立されているかどうかは不透明です。 当市はライフライン（上下水道、ガス等）を自前で運営している訳ではありませんので、今一度緊急時の対策を検証し、備えて頂けるようお願い致します。	No. 17 E 氏	災害への対策につきましては、今後益々重要度が増すことが想定されます。 Ⅱ-6「4.6つの目指すまち」として「⑥災害に強いまち」を掲げており、大前提としてⅡ-1「1.まちづくりの基本理念」の基盤となるまちとくらしにおいて「安全なまちで安心なくらし」を掲げておりますので、実現すべく推進していきます。【その他】
Ⅱ-13	将来的に国道16号線の北側区域（主に”人と緑の共生ゾーン”）の活性化が市全体のまちづくりに貢献でき、人の交流に繋がるものと思われます。 提言の中でも、種々ネットワークの更なる連携・構築が求められ、市民への情報提供の方法、在り方を工夫する事など述べられております。	No. 18 E 氏	国道16号線の北側区域を含め、市全体的に、地域それぞれの特性や魅力を活かせると考えております。そのため、広域を「人とみどりの共生ゾーン」としましたが、市全域においてこれまで大切にしてきたみどりを活かしたまちづくりを進めるために「7.2 将来都市構造」のうち2～4行目を下記のとおり修正します。また、併せて素案の「人とみどりの共生ゾーン」を「地域の魅力活用ゾーン」とし下記のとおり修正します。 →これまで築き上げてきた白井市の財産であるみどりを白井市全域に活かすために、白井市全域を「人とみどりの共生エリア」とし、人とみどりが共生しながら、みどりを活かした美しい景観やおしゃれさの追求など人とみどりが共生するまちづくりを進めます。 「市街地ゾーン」では、人のくらしや産業を中心としたまちづくりを進め、「地域の魅力活用ゾーン」では、それぞれの地域の特性や魅力を活かしたまちづくりを進めます。 【修 正】
Ⅱ-14	当（素案）最終ページで展開しているように、政策の成果目標として、今後10年間の計画となる 大胆な将来像を示して頂き、” 便利なまち、豊かなまち、住んでみたいまち” の構築をお願い致します。	No. 19 E 氏	本基本構想に基づき、前期基本計画を策定していきます。 前期基本計画において、基本構想に沿った成果目標を定めていきます。将来像につきましては今後の参考とさせていただきます。 【参 考】
他	これからのまちづくりは、行政主導ではなく、住民自らが我が事という意識を以て取り組まないと、結果的には絵にかいた餅に終わってしまいます。全住民の総意をとることは困難ですが、少しでも我が事化が浸透するように、白井市の学校教育の中にまちづくりの課程を盛り込んでいったらどうでしょうか。そして、6つの目指すべきまちづくりにつなげていけるように、微力ながらお役に立てればと思います。	No. 20 F 氏	これまでの「教育」の考えとしましては、親目線での「教育」が主でしたが、本基本構想の策定においては子ども目線での「教育」も意識しました。 その結果としてⅡ-6「4.6つの目指すまち」において「③自ら学び育ちチャレンジできるまち」が掲げております。 本基本構想を策定する過程として、子どもたちを対象とした「しろいの未来作戦会議」というワークショップを開催しましたが、市を良くするための前向きな意見が多く、大変有意義なものとなったところです。 いただいた御意見のような、子ども達の力をまちづくりに生かす方向性は本基本構想と合致しております。具体的にどのように形にしていくかは、様々あると考えられます。本基本構想に基づいた取組や事業を考える上で参考とさせていただきます。【その他】

他	全体の枠組みとしては良いと思います が、方法論として「試行」「試み」という 言葉が全くありませんでした。今までも、 構想は立派ですが実現化までこぎつけて いないことが多いと思います。まずは試 行することが大切だと考えます。 「計画策定」の過程として「試行」が 含まれているのかと思いますが、費用 が足りないなどの理由で優先順位が下がり 机上検討で終わることがないように、「試 行」のプロセスを極力実施するよう明記 した方が良いと思います。 また、白井市は市民活動が活発だと思 いますが、市民が考えている良い事業は 構想で終わることなく実装できるよう、 市民による公共事業の「試行」をサポート する仕組みがあると良いです。企業に は「新規事業コンペ」などを実施して事 業案を社員から募集する仕組みがありま すが、それを白井市でも行うということ です。 例えば自動運転やデマンドカーなど 新しい交通システムが全国では普及し始 めていますが、白井市では導入が進んで いないように見えています。一方で市民 の中からそのようなアイデアや試行案が 出されることもあるかと思います。そう いうアイデアの募集、審査や具体化のサ ポート、試行などのプロセスを定型化し て多くのアイデアを集め試行できる仕組 みを作るべきだと思います。	No. 21 G 氏	本基本構想では「挑戦」という言葉を掲げ ております。 挑戦するためには、まずはやってみること (試行すること) が大切と認識しております。 Ⅱ-7「5. まちづくりの推進の考え方」にお いて、多様な主体がまちづくりに取り組むた めの仕組みづくりについて記載してござい ます。 これに基づき、行政によるサポートも含め て、多様な主体が挑戦（試行）できる仕組み づくりを推進していきます。【その他】
---	---	---------------	---

他	『白井らしい環境が残る町 自然環境と都市環境が調和する「白井らしさ」を持つ資源が次世代に継承されるまちを目指します。そのために、「白井らしさ」を持つ資源を発掘・共有し、自然環境の保全や利活用を進めるとともに、持続可能な農業を実現し、みんなが誇りに思える白井市の特産品を後世に残す取組を推進します。また、老朽化した建物への対応を進めるとともに、空き家対策や未利用地の有効活用を推進します。』とありますが、白井の特徴である梨農園の減少、文化センターの機能縮小、自校式給食は潰されて、住宅地に隣接する土地にDC建設許可している現状と矛盾しています。白井市政はダブルスタンダードを超えた詐欺に近い手法を平気でとる人が集まっているのでしょうか。関心を持つほど残念に思う事ばかりです。市民参加条例にある「市民との信頼関係」を壊しているのは元も子もありません。ワークショップ、パブコメ、アンケートと手段は網羅していますが、どんなに聞こえのいい言葉を並べても「都合の良い事しかない」と見られています。市役所内には街づくりのセンスのある人がいないので、街=箱、人・金=数字という枠から抜けられず市民目線・循環する街づくりがされないのでしょうか。今回のワークショップでもモビリティについて「新しい事をする気はない」とはっきり言っていました。ワークショップでの意見をその場で否定。地域の問題についても「ここでは触れない」と言う。自分たちのやっける事を客観的に評価できず、棚に上げて、なんなんだろうと思います。街づくりについてセンスのある人を集めた部署を作ってはいかがでしょうか。古い組織体制を改善されないと良い街づくりはできません。	No. 22 H氏	本基本構想は白井市第6次総合計画の一部にあたるものですが、ここで言う白井市とは市行政だけを指す言葉ではなく、白井市民をはじめ市に関わる全ての方を指します。 Ⅱ-7「4.6つの目指すまち」において「④白井らしい環境が残るまち」を掲げておりますが、この「4.6つの目指すまち」はⅡ-7「5.まちづくりの推進の考え方」で示したようにまちづくりに対して多様な主体が参画し、役割分担をしながら連携・協力していくことが大切となります。 多様な主体がまちづくりに参画する際に、時には意見や考え方が対立することも考えられますが、これからの白井市を考えてどのように推進していくかは、多様な主体が対話を重ねながら推進していくことが大切と考えますので「No.4」のとおり修正します。 【修正】
他	市民が主体的に街づくりに関わり提案運営するような市にしたいのだと思いますが、今の段階では市民にそれが浸透していないので、丁寧なサポートが必要だと思います。白井の未来は市民一人ひとりにかかっているという意識づけ、また市民が自分たちで勝手に活動してくれるようになるまでは、初めは市職員がどのように取り組んでいけばいいかの丁寧な説明・サポートをすることが必要です。どこまで市民の役割なのかも不透明なので、明確にする必要があります。	No. 23 I氏	Ⅱ-7「5.まちづくりの推進の考え方」において、まちづくりの主役は市民とあり、市民一人ひとりがまちづくりへ興味をもち、参画することは大切である旨記載しているところですが、いただいた御意見のとおり、その活動を補完（サポート）する地域や行政も重要となります。「5.まちづくりの推進の考え方」の理解度を深めるため、周知等に努めるとともに、仕組みづくりも推進します。 まちづくりは多岐に及ぶためここでは具体的に市民の役割を明記できませんが、それぞれの活動を推進する際の役割の具体化は重要と考えます。【その他】

Ⅱ-13	将来都市構造で、「中心都市拠点」では、コンパクトでにぎわいのある拠点づくりを進めます。「生活拠点」では、地域住民の暮らしを支える拠点づくりとありますが、西白井駅の方が新鎌ヶ谷にも近いことから賑わいの創出や若年層が移住しやすいまちづくりが必要なのではないでしょうか。	No. 24 J氏	「中心都市拠点」「生活拠点」の両拠点につきましては、現況の土地利用を踏まえ、前回の基本構想を引き継ぎ、区域の設定を行う方針です。 西白井駅周辺につきましては、「生活拠点」として、近隣商業・サービス機能といった生活の利便性などに特化した拠点づくりを推進し、白井駅周辺につきましては、「中心都市拠点」として、市の中心的な都市機能や交流機能、商業機能などを備えた拠点づくりを推進することとしておりますが、各駅の魅力や機能を活かしにぎわいを創出することで、若い世代の定住の促進を図っていきたいと考えています。【その他】
Ⅱ-6	⑥災害に強いまち 災害が少ない白井市ですが、この文言中に「避難所」のワードが一言もありません。私はそれに不安を感じます。福祉避難所の充実も入れてほしいです。	No. 25 J氏	Ⅱ-6「⑥災害に強いまち」において既存施設を有効活用について、記載しております。 避難所の充実につきましては、この既存施設を有効活用の方針を基に取組等を策定の上推進していきます。【その他】
Ⅱ-3	(5) 企業の誘致・雇用の創出で、企業誘致は大きな土地を要するようなデータセンターだけでなく、サテライトオフィスでも良いと思いますので、「データセンター」わざわざ記載しなくても良いと思います。	No. 26 J氏	データセンターにつきましては、例示として記載しているところです。 市の強みを活かした企業誘致が重要であることを明記するため「No. 8」のとおり修正します。【修正】
Ⅱ-2	(1) 若い世代や子育て世代への支援の充実について、「充実した教育環境を整備する」とありますが、私学がない当市なので、企業誘致だけではなく、学校誘致も進めていただきたく、その文言を入れていただきたいです。	No. 27 J氏	Ⅱ-2「2. 今後10年間の重要なテーマ」につきましては、「白井市の現況」等各種の調査結果を基に導き出したものとなります。 御意見のとおり、白井市には私学がなく、データ上も若い世代は就学や就職を機に白井市を転出している傾向があります。 しかしながら、白井市における転入超過数をみると、白井市は子育て世代に選ばれており、その長所を活かすことを考えております。長所を活かすうえで、学校の誘致することでの効果は否定しませんが、「ライフステージが変化しても安心して生活できる環境づくり」や「白井市で子育てしたいと思える充実した教育環境を整備」の推進を優先するため、学校の誘致についての明記はしないこととします。【その他】
Ⅱ-2	(2) 人生100年時代に向けた福祉の充実とありますが、この記載の仕方ですと、高齢者福祉だけの充実と思われてしまいます。人生100年は網羅していると言われると思いますが、児童、障害、ひとり親、貧困という文言を入れた方がわかりやすいと考えます。	No. 28 J氏	いただいた御意見を踏まえてⅡ-2「2. 今後10年間の重要なテーマ」のうち「(2) 人生100年時代に向けた福祉の充実」につきまして、下3行を下記のとおり修正します。 →人生100年時代に向けて、誰もが健康を維持しながら生涯にわたって学び、互いに支え合いながらいきいきと活躍し続けられるまちづくりが求められます。【修正】

他	この素案には、文化、観光の創造で魅力ある（引きつける）まちづくりの文言がありません。（公園の充実も含め）市の経済のためには今居る市民だけではなく、他地域、県外、インバウンドも見込めるような魅力づくりは重要かと思います。ぜひ入れていただきたいです。	No. 29 J 氏	文化や観光といった直接的な表現はありませんが、Ⅱ-2「2. 今後 10 年間の重要なテーマ」のうち、Ⅱ-3「(4) 産業の振興」、「(5) 企業の誘致・雇用の創出」、「(6) 居場所・交流の場の創出」やⅡ-6「4. 6 つの目指すまち」のうち「④白井らしい環境が残るまち」の「白井らしさ」を持つ資源の発掘等を推進していく中で、文化や観光の創造も取り組んでいきます。【その他】
他	第 6 次総合計画は、第 5 次総合計画継続であるのが基本ではないか。 そのため、第 6 次総合計画は、第 5 次総合計画の基本構想基本計画及び実施計画の進捗状況を検証して達成されていない事等を認識し、今後をどうするのか、明示すべきである。 また、社会や経済状況の変化により必要であると思われる事柄は基本構想、基本計画及び、実施計画等を追加し、審議検討すべきである。	No. 30 K 氏	前回の計画である第 5 次総合計画においては、総合計画審議会を経て評価を実施しております。 本基本構想は、その結果も踏まえ、「市の現況」や「各種アンケート」、「市民ワークショップ」、「主な社会動向」等を踏まえ、新たに策定するものです。【その他】
他	総合計画で示されている事柄は常日頃から市が行わなければならないことが多いのではないかと。 もちろん、幅広い市民の将来に夢や希望の持てる政策を考えていただきたい。期待しています。	No. 31 K 氏	本基本構想に掲載していることは市として重要なものです。 ここで言う市とは市行政のみならず市民や市に関わる全て方を指し、市が常日頃意識してまちづくりを推進するため、本基本構想の内容の周知に努めます。【その他】
他	「循環」「挑戦」「守り」がキーワードになっていますが、「守り」の姿勢が強いように思いました。 もう少しチャレンジブルな目標があっても良いのではないのでしょうか。（印西市長の日本で一番のデジタル教育実現など）	No. 32 L 氏	総合計画のうち、基本構想の大きな役割としましては、目的や方向性を示すものとなりこの度は「循環」「挑戦」「守り」を掲げたものとなります。 具体的なチャレンジブルな目標は、本基本構想には掲げておりませんが、「守り」以外の要素も重要ですので、このことを意識して、前期基本計画や実施計画において目標を定めます。【その他】
Ⅱ-11	人口推計について、過去のトレンド、直近の少子化の加速を考えると楽観的であると思います。 結婚、子育て施策によって増加とありますが、印西市などとの人の取り合いになったとき、白井市のアピールポイントがよくわかりません。人口が大幅に減る想定も必要ではないのでしょうか。	No. 33 L 氏	人口 6 万人を維持することは、社人研の推計値から考えても簡単ではありませんが、基本的大枠となる目標として定めたところで す。 本基本構想はこの目標の達成の有無にかかわらず少子化の加速を見込んで、持続可能な行財政運営等の方針を定めております。 【その他】

Ⅱ -13	将来都市構造について、中心都市拠点 が白井駅周辺になっていますが、データ センター以外の開発計画はあるでしょう か。また、桜台地区は生活拠点ではない のでしょうか。 さらに、白井市役所と桜台を結ぶ地域 軸（道路）が完成済みとなっています。 毎週自転車で走っていますが、歩道なし 一車線の部分があり、恐くて仕方ありま せん。途中まで作ってある道路は放置で すか。	No. 34 L氏	基本的大枠となる目標としてⅡ-13「7.2 将 来都市構造」を定めているところです。細か い開発計画や、道路の完成度を明示するも のではなく、各エリアの方向性を示したもの となります。 各拠点につきましては、市内の駅を中心と して、前回計画に引き続き整備を進める方針 です。その他の地区につきましては今後の参 考とさせていただきます。 また、ご指摘いただきました道路につきま しては、基本的に県道千葉ニュータウン北環 状線を地域軸として捉えております。現状に おいて、この県道は、全て開通に至っており ませんので、市道の一部も活用し地域軸（道 路）として考えております。【参 考】
他	若年層、高校生のアンケート回収率が 低いのに驚きました。特に高校生は 13.6%と無関心を通り越しています。「明 るい未来」を作れなかったこと、一市民 として反省しています。	No. 35 L氏	この度の各種アンケート調査につきましては は、Web 回答を導入しました。 住民意識調査につきましては、回答率が 52.3%で、前回調査と比較して、15.9 ポイン ト増加したところですが、いただいた御意見 のとおり、高校生世代アンケート調査では 13.6%に留まったところです。 「明るい未来」を作りあげていくためにも、 小中学生、高校生、若い世代などにも関心を 持ってもらえるように総合計画の概要版等 を作成し、活用しながら周知に努めます。 【その他】